自己点検・評価項目　東京さくら学院

2021年5月

5:達成している　4:ほぼ達成している　3:どちらともいえない　2:取り組みを検討中　1:改善が必要

1.　教育の理念・目標			評価
1	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2	学校の特色は何か	5
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

本校の教育目標は、「大学院・大学・専門学校への進学率100%を目指す」、「進学のための日本語教育にとどまらず、日本での生活に役立つ実用的な日本語を教授する」、「日本の留学を通じて、文化・習慣等の違いを認識させ、国際的な広い視野を持つ有能な人材の育成を目指す」の3点である。それぞれの目標について、教職員はもちろん、授業や生活指導を通して学生たちに意識するよう心掛けてきた。昨年度は進学だけではなく、就職希望の学生も含め、ほぼ希望通りの進路に進むことができた。将来的に増えるであろう就職希望の学生の受け入れ体制も整いつつある。

本校の理念は「質の高い日本語教育により、日本語力を高め進学する力をつける。また、日本文化の理解を図り、日本と諸外国の交流発展に寄与する」であるが、この理念に基づいて日々の教育が行われている。また、学生一人一人に対する丁寧な進路指導、授業後の能試や留試対策の補講も本校の特色として行われている。

2.　学校運営			評価
5	2-1	運営方針は定められているか	5
6	2-2	事業計画は定められているか	5
7	2-3	運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5
8	2-4	目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
9	2-5	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	4
10	2-6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
11	2-7	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	4
12	2-8	危機管理体制は整備されているか	4
13	2-9	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

昨年度4月は新型コロナウイルス感染症により休校・自宅学習期間となり、5月は急遽オンライン授業を実施した。4月入学予定であった新入生は10月以降順次入学となった。その間授業時間数減が続いたが、非常勤講師も含めて休業手当を支払い、雇用の確保に努めた。また、課題となっている学校運営・学生管理のICT化も2021年度以降、徐々に開発・導入を進めていく。危機管理体制としては、毎年夏に避難訓練を行い、その際非常時における学生・教職員との連絡方法の確認を行うこととした。方法としては、LINE等のSNS、電話、ホームページの3つのうちいずれかで必ず連絡が取れるようにしている。

3. 教育活動			評価
14	3-1	カリキュラムが体系的に編成されいるか、またその改善のための取組が行われているか	5
15	3-2	生徒が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	5
16	3-3	成績評価や進級、修了の判定基準は明確になっているか	5
17	3-4	教育の質、教員の指導力向上のための取組が行われているか	4
18	3-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	4

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

カリキュラムについてはレベル別に体系的に編成されている。教師間で常に話し合い、学生のレベルに合わせて修正や改良を加え柔軟に対応している。変更があった場合などは、その都度会議を開き、確認をしている。クラス内で学生間のレベル差が激しい場合などは、取り出し授業や補講等で対応している。

昨年度はコロナ感染拡大の影響を受けて、5月の約1か月間オンラインでの授業を行った。最初は不慣れなこともあり戸惑いもあったが、これをきっかけにオンライン授業でも十分対応できる体制を整えていきたい。

到達目標として卒業までに最低N3以上の日本語力を目標として掲げ、学生達にも意識させている。

成績評価は各テキストで行われる定期試験、年2回行われる期末試験、各種日本語試験の模擬試験、日々の授業に対する取り組み等で適切に行い、必要があればクラスの変更などを適宜行っている。

教員間では随時、専任または担任教師、同じクラスを担当している非常勤講師などと授業内容、指導法、学生の様子などを細かく報告し、お互いに情報を共有し、常に教育の質を高めようと努めている。

また年2回行っていた教職員の会議に加え、今後は教員同士の研修会の回数を増やし、指導力向上のための取り組みも積極的に行っていく。昨年度末の教職員会議では、初級の授業の進め方を全体で見直し、今年度からは漢字授業のICT化も進めている。

昨年度は第1回目のEJU（6月）、JPT（7月）が中止になったこともあり、大学等で要求されたJ-TESTやJPTなどの各種日本語試験の紹介をし、受験をさせた。

4. 学修成果			評価
19	4-1	生徒の日本語能力の向上が図られているか	5
20	4-2	生徒の日本語能力が学校が定める到達目標に達しているか	4
21	4-3	生徒の進路を適切に把握しているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

学生の日本語能力向上のため、日々の授業はもちろん、自宅学習を習慣づけるよう指導している。また、卒業後の進学や将来の目標を持たせることで、学生が自発的に日本語能力を向上させる意識づけもしている。

学生の日本語能力は本校が定める到達目標にほぼ達している。希望の進路また卒業後の進路についても随時面談などを通して学生の意志を確認しており、担任教師だけでなく、教務や事務などの他の教職員の間でも情報を共有するようにしている。

5. 学生支援			評価
22	5-1	進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
23	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
24	5-3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
25	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
26	5-5	保護者と適切に連携しているか	5
27	5-6	卒業生への支援体制はあるか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

学内における進路ガイダンス行い、大学や専門学校による進学説明会やオープンキャンパスへの参加を積極的に呼びかけている。また進学以外でも個人面談を適宜行っており、学生とのコミュニケーションを密に取っている。昨年度は就職した学生も増え、就職面におけるサポートもできた。

年に1回、学生全員の胸部レントゲン撮影の検査で健康状態の確認をしている。体調などが悪い学生には、教職員が早めに声をかけ、病院へ連れて行くなど万全の処置をしている。また精神面でのサポートも教務と事務が常に学生の様子に気を配り、声をかけるようにしている。また地震のビデオを見せたり、避難訓練などを実施したりして、非常時に適切な対応が取れるように指導しており、心身面や事故などに対するサポート体制は整っている。今後はSNSなどを活用した全学生との連絡方法を確立させていくことが必要であると考える。

昨年度はコロナ感染予防のため、マスク、手洗い、アルコール消毒、換気、体温測定、各教室をコロナ仕様にするなどの対応を徹底して行った。幸い今まで一人も感染者が出ておらず、今後も感染予防を徹底する。

学生寮は月に1回、教職員による点検が入り、設備等の確認、衛生面の指導を通じて学生の生活環境への支援を行っている。点検結果が悪かった場合は指導し、再点検をしている。

保護者には学習報告書を作成し、年に1～2回、学生の出席率、成績等の連絡をしている。その他、特に問題があるような場合は、すぐに連絡ができる体制が整っている。

卒業生に対しては、卒業後も所在をできる限り把握するようにしており、進路や生活面においてもサポートしている。また昨年度はコロナの影響で実施できなかったが、同窓会を行うことによって卒業生の近況の確認をするようにしている。今後も年に一度、学校行事として同窓会を開くことになっている。
また、専門学校等に進学した卒業生が就職する際の支援も行っており、実際に数名が就職することができた。

6. 在籍管理と生活指導			評価
28	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
29	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	5
30	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
31	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

入学時のオリエンテーションで日本社会を理解するための指導、法令遵守の指導、在留関係の指導を行っている。授業内や日常においても、日本社会のルールや常識について話す機会を持つよう心がけている。
ビザ更新時には前もって学生と事務の個人面談を行い、学生の情報を確認し、問題なく更新できるようにしている。また年に一度、千葉県警、佐倉警察署、国際捜査情報センターの指導の下、外国人が注意すべき安全、防犯教育の実施をしている。（昨年度はコロナの影響により未実施）

また学生個人カードを作成し、毎月一回住所やアルバイト等、最新の学生情報の確認をしている。

7. 学生の募集と受け入れ			評価
32	7-1	学生の受入方針は定められているか	5
33	7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	5
34	7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
35	7-4	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
36	7-5	適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

ホームページで学校の情報提供や募集要項等を閲覧できるようにし、学生募集の説明会や入学選考の面接試験は、担当者が現地に赴き、適切に行っている。また、中国・ベトナムの高校や大学と直接提携し、優秀で勉学意欲の高い学生の受け入れを積極的に行っている。

留学目的の多様化や在日生のニーズに応えるため、コース・カリキュラムの変更と、入学時期を4月・7月・10月・1月の4期とすべく、届出を行った。

コロナ禍で現地に募集に赴くことができない状況が続いているが、当校留学を目指す学生からの問い合わせは多く、コース・カリキュラムの変更が受理された後、学生数を増員する予定である。

8. 財務			評価
37	8-1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4
38	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
39	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	5
40	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	3

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

これまで予算に基づき財務管理を行ってきている。今年度はコース・カリキュラム変更の届出を行い、来年度は120名から180名への増員を予定している。より幅広く留学生の受け入れを行い、学生数の安定確保を目指し、財務基盤の安定に努めたい。

会計処理は適切に行っており、税理士による会計監査も毎年行われている。

財務情報の公開については、今後の課題とする。

9.　法令等の遵守			評価
41	9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
42	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
43	9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
44	9-4	自己点検・自己評価を公開しているか	5
45	9-5	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

法務省認定校として、法令・設置基準等を遵守して適正な運営を行い、適正校として認定されている。
個人情報保護に関しては、ファイルの共有等において問題がないかどうか、今後検討したい。
自己点検・自己評価については、半年ごとの非常勤講師へのアンケート調査結果や定期的な専任会議での議論を踏まえ、年度末の専任会議において総括を行い、ホームページで公開している。
関係省庁への定期報告は担当者を決め、遅延なく実施している。今後、学校運営・学生管理システムの構築により、さらにスムーズな書類作成・提出が可能となるであろう。

10.　社会貢献			評価
46	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3
47	10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	3

＜現状・具体的な取り組み／課題＞

学校の施設を活用した社会貢献は行われていないのが現状であるが、今後は空き教室を使って、地域在住の外国人のための生活相談の場などを設けたいと考えている。また例年、学校の式典や行事には地域関係者を招待している。2018、2019年度は佐倉国際交流基金が主催したスピーチコンテストに本校からも学生が参加し、交流する機会を持つことができたが、昨年度はコロナの影響もあり、スピーチコンテストが開催されず、残念ながら交流する機会を得ることができなかった。今後、地域の清掃活動などボランティア活動、町内会に関する活動、また学生から希望があった老人ホームや介護施設、幼稚園、小学校などとの交流活動にも積極的に取り組んでいきたい。